

震災でSSも自宅も失ったにも関わらず仮営業を継続し、その後、高台に移転・新設。非常用電源と太陽光発電パネルを供える災害対応SSへ。

背景・課題

- 震災前、同社SSは海まで約200mの位置で住宅街に立地していたが、震災の津波でSSの店舗・設備も住宅も流され壊滅状態に。
- それでも、地域が生き延びていくために、七ヶ浜に電気が通ると真っ先に瓦礫の中でスタンドを再開。
- プレハブを建て、コンテナを取り寄せ、計量機を探し仮営業を開始。

取組内容及び効果

【状況が変わるきっかけ・気づき】

- 海から近く、危険区域のため、自治体から移転するよう要請があった。
- 復興の補助金を活用できると、知人の用地紹介があった。

【地域のニーズ・社会的課題解決の秘訣①】<燃料供給の自負>

- 震災後に灯油、軽油、ガソリンともに強いニーズが発生。
- 灯油は、工事現場での暖房用と宮城生協の配達代行をしていたため、地域から強い配達ニーズがあり再開。
- 軽油は、復興関連の工事車両用で、タンクローリーで配達。
- ガソリンは、地域住民から「困るので何とかして欲しい」との要望が多数あり再開。
- 燃料がなければ、地域の生活が立ち行かないことを痛感。

【地域のニーズ・社会的課題解決の秘訣②】<災害への備え>

- 新設したSSでは、ソーラーシステムと自家発電機を設置し、非常時に備える。
- 井戸水を浄化して使えるシステムを採用し、非常時に備える。

【地域のニーズ・社会的課題解決の秘訣の定量的・波及的効果】

- 移転前は街中でピーク時でもガソリン販売数量が35kl程度であったが、好立地の街道沿いに移転後は100kl程度に増加。



震災後の壊滅状態でも仮営業する同社SS



移転・新設の同社SS

今後の展望

- 新店舗で地元の復興に携わっていきながら、燃料販売のみに頼らない新しい事業、例えば、洗車、タイヤ交換・預かり等の拡大をしていく。

会社情報	会社名	(有) 斎藤商店
	運営SS数	1SS
	ガソリンの月販ごとのSS数	100kl
	系列 (主なマーク)	コスモ石油
	ガソリン卸先数	1カ所
	SS以外の兼業事業概要	LPガス販売、不動産

取組を行っている店舗情報	店名	サーフサイドセルフ七ヶ浜SS
	所在地	宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字謡136-3
	立地特性	郊外/街道立地
	営業時間	6:00 ~ 22:00
	従業員数	9人
	運営形態	フル・セルフ併用
	敷地面積	350坪
	燃料油販売数量	100 kl/月